

排出ガス対策型等建設機械

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付建設省経機発第249号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着（黒煙浄化装置付）することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督員と協議するものとする。

排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。なお、指定機械であることを識別するバールが添付されているので、確認できるよう撮影すること。

機 種	備 考
一般工用建設機械 バックホウ トラクタショベル（車輪式） ブルドーザ 発動発電機（可搬式） 空気圧縮機（可搬式） 油圧ユニット類	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を掲載した建設機械に限る。
以下に示す基礎工用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立した、ディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載するもの 油圧ハマー、バッドローダー、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースカー、オールケーシング掘削機、リバーサークュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機	
ロードローラー、タイヤローラー、振動ローラー ホイールクレーン	
注1 上記建設機械は、低騒音・低振動型とする。	

<表－1> 発生材の処理等

1. 再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再 生 資 材 名	規 格	使 用 箇 所	再資源化施設名・所在地	備 考

2. 建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発 注 機 関	工 事 名	発 生 場 所	施工会社名・連絡先	備 考

3. 建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。

受入工事名／施設名称			
工事場所／施設所在地			
連 絡 先			
仮 置 場 所 の 有 無			
備 考（条件等）			

4. 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとし積算している。

搬出する廃棄物名					
処 理 施 設 名 称					
施 設 所 在 地					
連 絡 先					
備 考					

上表4は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5. 建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、同法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

6. 自ら産業廃棄物を運搬する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

7. 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに監督員に報告し、協議すること。

<表－2> EM電線の記号および仕様

記 号	仕 様
EM－CEE S	JCS 4258 D(制御用ケーブル(遮へい付))準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－UT P	JIS X 5150により、絶縁材にJIS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－MEES	JIS 3271 A(MVVS)に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－EBT	EBT（電子レンジ電話用ケーブル）に準じ、シースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの

<表－3> 工事区分表

工事区分表（1）注）原則○印を適用する。ただし、複数記載してある項目についての区分はその項目を必要とする施工者に適用する。

項 目		建	電	空	界	昇			備 考
軀 体 関 係									
1. RC造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	貫通ケーブル材及び取付け		○	○	○	○	○		
	補強を要する型枠材及び取付け		○						
	補強を要しない型枠材及び取付け		○	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
	貫通孔・開口部の墨出し		○	○	○	○	○		防火区画、防煙区画
	貫通孔・開口部の補強		○						
2. S・SRC造・はり貫通口	ケーブル・型枠の穴埋め		○						
	S・SRC造貫通鋼管鋼管ケーブル・補強		○	○	○	○	○		
	使用されたケーブルの穴埋め		○						
	予備ケーブルの穴埋め		○	○	○	○	○		
	3. 設備機器の基礎	建築設計図に記入のあるもの	△	△	△	△	△		
	室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）		○						
	屋外・屋上の基礎		○	○	○				
	屋上基礎で押さえコンクリートがしない軽微なもの			○	○	○			
	機器取付け用アンカー・架台			○	○	○			
	屋内受水タンク用の基礎		○						
仕 上 げ 関 係									
軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強		○						
	補強を要しないボードの切り込み			○	○	○			
	開口部の墨出し			○	○	○			
電 気 関 係									
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地線共）				○	○			二次側
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線			○					一次側
	機器と付属操作スイッチの取付け及び渡り配管配線				○	○			
	その他（工事区分を特に間違えやすい項目）								
天井材の取外し再取付	各種配管配線作業用			○	△	△	△		小規模は監督員と協議
	床はつり補修	各種配管配線作業用			○	△	△	△	小規模は監督員と協議
流し台、ガス台			○						
便所手洗いカウンター			○						衛生陶器は衛生設備
洗面化粧台							○		
誘導標識			○						誘導灯は電気設備
ガス漏れ警報器							○		ガス漏れ火災警報設備は電気設備
24h換気扇連動スイッチ	機器納入						○		
	取付						○		
湯沸器連動スイッチ	機器納入						○		
	取付						○		
上記以外換気扇スイッチ	機器納入、取付			○					

<表－4> あと施エアンカー

1 共通事項	(1) 既設のインサート及びアンカーは原則として使用しない。やむを得ず既設のインサート及びアンカーを再利用する場合は、状態及び強度をよく確認し、十分に清掃してから使用する。 また、引張強度の確認試験については下記による。 (2) あと施工アンカーについては機械設備工事標準図（施工17）による。 (3) 穿孔作業には、専用ドリル、振動ドリルやハマードリル等を使用し、必要埋設深さを確保するため、穿孔深さのドリルへの表示やストップ付きドリルの使用等を行う。
2 重要機器用とあと施工アンカー	(1) 重要機器の耐震固定等に使用するあと施工アンカーは金属拡張アンカー又は接着系アンカーとし、耐震計算にて選定を行う。 (2) 金属拡張アンカーの仕様は、次による。 (7) 金属拡張アンカーは、(社)日本建築あと施工アンカー協会の金属系あと施工アンカー品質性能判定表の性能を満足する製品とする。 (4) 金属拡張アンカーのセッ方式は、図示による。図示がなければ、本体打込み式とする。 (5) 金属拡張アンカー本体の径及び埋め込み深さは、図示による。 (イ) ギョー筋の種類、径及び長さは図示による。 (3) 接着系アンカーの仕様は、下記による。なお、下記により施工が困難な場合は、監督員と相談すること。 (7) 接着系アンカーは、(社)日本建築あと施工アンカー協会の接着系あと施工アンカー品質性能判定表の性能を満足する製品とする。 (4) 接着系アンカーは、W型とし、接着剤の材質及びWの種類の図示による。 (5) 接着系アンカーの埋込深さ及び許容引抜荷重については、機械設備工事標準図（施工17）による。 (4) あと施工アンカーの施工には、工事内容に相応した施工の指導を行うあと施工アンカー技術管理士又は主任技士を置く。 (5) あと施工アンカー作業における技能者は、あと施工アンカー工事の施工に関する十分な経験と技能を有する主任技士又は第1・2種あと施工アンカー施工士とする。 (6) あと施工アンカーの撤去は、専用の工具を使用し、構造物に影響を与えないようにすること。

<表－5> 設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説 平成8年版」による耐震安全性の分類			
		・特定の施設（・甲類・乙類）		※一般の施設（・乙類）	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	機 器	2. 0	1. 5	1. 5	1. 0
屋上及び塔屋	防振支持の機器	2. 0	2. 0	2. 0	1. 5
中 間 階	機 器	1. 5	1. 0	1. 0	0. 6
	防振支持の機器	1. 5	1. 5	1. 5	1. 0
地下・1階	機 器	1. 0	0. 6	0. 6	0. 4
	防振支持の機器	1. 0	1. 0	1. 0	0. 6

重要機器：・配電盤・発電装置・直流電源装置・交流無停電電源装置  
・交換機・火災報知受信機・中央監視装置  
上層階の定義：2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。

機器取付高は、下表を標準とする。ただし、監督員の指示により変更することがある。

名 称	測 点	取付高（mm）
電力共通	取引用計器	地上-上端 ※ 2,000 ・
	引込開閉器	〃 ※ 1,800 ・
電 灯	分電盤	床上-中心 ※ 1,500（上端1,900以下）
	ランプライティング（一般）	〃 ※ 1,300 ・
	〃（身障者用）	〃 ※ 900～1,000 ・
	コンセント（一般）	〃 ※ 300 ・
	〃（和室）	〃 ※ 200 ・
	〃（台上）	台上-中心 ※ 150 ・
	ブラケット（一般）	床上-中心 ※ 2,100 ・
	〃（踊場）	〃 ※ 2,500 ・
	〃（鏡上）	鏡端-中心 ※ 150 ・
	〃（浴室）	床上-中心 ※ 天井高×0.9 ・
非常照明器具用遮断器	－	※ 1,200 ・
	避難口誘導灯	床上-下端 ※ 1,500以上 ・
廊下通路誘導灯	床上-上端	※ 1,000以下 ・
	動力	壁掛型制御盤
手元開閉器		〃 ※ 1,500（上端1,900以下）
操作スイッチ・押しボタン		〃 ※ 1,300 ・
電 話	室内端子盤	床上-下端 ※ 300 ・
	中間端子盤	床上-中心 ※ 1,500 ・
	保安器箱	〃 ※ 天井高×0.9 ・
	壁掛位置ボックス（一般）	床上-中心 ※ 200 ・
時計	壁掛形観時計	床上-中心 ※ 1,500（上端1,900以下）
	子時計	〃 ※ 天井高×0.9 ・

<用語の説明>

(1) 「撤去」とは、既存物を壊し取ること。  
(2) 「取外し」とは、再使用を考慮して、丁寧に外すこと。  
(3) 「撤去・新設」とは、既存物を撤去し、新たな物を設置すること。  
(4) 「取外し・再取付け」とは、既存物を取外し、同じ物を取付けること。

担当者：1級建築士 第264277号 近山 富貴

一級建築士事務所

株式会社

堤 建築設計事務所

〒951-8062 新潟市中央区西堀前通二番町715番地 TEL 025-222-6509 FAX 025-229-1702 E-mail : tutumi-a@pearl1.ocn.ne.jp

管理技術者

野沢

主任技術者

近山

作成者

中野

設計番号

1708

作成年月日

2017/03/31

工事名称

おもてなし広場2ドコト等整備建設工事

図面名称

電気設備工事仕様書(2)

区分

実施設計

縮尺

NOSCALE

図面番号

E-02

意 構 外

電 機